

KOGA IDOL

今月の古河っ子

いいこが育つ古河



船津璃子ちゃん

(平成28年10月生まれ・大和田)

笑顔いっぱいの毎日をありがとう。健やかに成長できますように！
(父：光弘、母：智子)



尾花葉太くん

(平成29年10月生まれ・諸川)

三兄弟末っ子のような君。これからも元気に育ってね！
(父：浩平、母：理美)



金子桃華(上)・桜音(下)ちゃん

(平成28年10月生まれ
平成30年11月生まれ・下辺見)

お姉ちゃんになりました。我が家に妹が増えました！
(父：貴行、母：のどか)

お子さんの写真を募集中！ <対象> 0～3歳の市内在住のお子さん <応募方法> メール・電話で受付中。メールのタイトルを「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、hisho.kouhou@city.ibaraki-koga.lg.jp(秘書広報課)へ申し込みください！



わたしの夢

ファンを魅了する世界一のゲームメーカーをめざして

大塚昂世さん 上辺見小学校6年生

僕の夢はサッカー選手です。幼稚園の頃から始めたサッカーがとても好きで、やめたいと思った事は一度もありません。テレビでリオネル・メッシを見て、小柄なのに誰よりも上手な事に驚きました。僕は誰よりもボールをたくさん触り、ボールと友達になり、メッシのように世界で活躍したいと思います。

また、世界一のゲームメーカーになるために、チームの仲間と積極的にコミュニケーションをとり、人として成長することも大切です。将来は世界のトップチームに入り、自分の全力のプレーでファンを魅了したいです。



キラリ☆輝く人たち

ヨーヨーを通してみんなを笑顔に

柳高志 さん(横山町・47歳)

誰もが小さいころに遊んだことのあるヨーヨー。小学生の時に偶然友達と遊んだことがきっかけで、今では世界でも有数のコレクター(収集家)になった柳さん。

ヨーヨーを通して東日本大震災の被災地支援を行ったり、放課後児童クラブでヨーヨー教室を開催したりと、趣味の域を越えて活動する柳さんにその原動力とこれからの目標を伺いました。



夢中になって練習

柳さんがヨーヨーと出会ったのは小学2年生の時。親にヨーヨーを買ってもらったことがきっかけで、すっかりその魅力にとりつかれてしまったと話します。毎日のように練習を続けた結果、近隣で開催される大会に出場するたび、優勝するほどの腕前になりました。

コレクターとしての一歩

一時期、ヨーヨーから離れた時期もありましたが、大学生の時に古道具屋でヨーヨーを見つけたことがきっかけで、収集に対する情熱が高まり、世界有数のヨーヨーコレクターへの一歩を踏み出します。大きな分岐点は、1998年のハイパーヨーヨーブームでした。当時社会人だった柳さんは1個3千円以上するものでも購入できましたが、子どもには手軽に購入できない

自身のできることを

2005年、世界有数のコレクターであることが認められ、コカ・コーラのヨーヨーを復刻する計画に参加。その結果、制作に携わったヨーヨーを提供してもらえることになったので、教室に参加した子どもたち全員にヨーヨーを渡すことができるようになりました。

避難所の子どもを笑顔に

東日本大震災の発生後、自身のできることをやろうと決めた、宮城県山元町と亘理町の

金額。気軽に遊べるはずの玩具が、子どもの手の届かないものになってしまったことにやるせなさを感じたそうです。安くて古いヨーヨーでも遊び方さえ分かれば、誰でも楽しめるというのを知ってもらうために、自身のコレクションを使って放課後児童クラブなどでヨーヨー教室を始め、決意をしました。

避難所にヨーヨーを5千個持参し、ヨーヨー教室を開催しました。教室を始めると、おじいちゃんが子どもに教えたり、子ども同士が技を競い合ったりする姿が見られ、笑い声が避難所の雰囲気をも明るくしたと言います。その時の光景が忘れられず、定期的に被災地でヨーヨーを配布したり、ヨーヨー教室での講師料を寄付したりと今でも継続して支援を行っています。



▲柳さんが復刻に携わったヨーヨー